

近現代史(17) 19世紀欧米文化史② ～美術史編～

1. [1. \_\_\_\_\_]

18世紀末～19世紀初、フランスを中心におこった古代ギリシア・ローマを規範とする格調の高い、均整のとれた美術様式。宮廷を中心に発達した。

(1)[2. \_\_\_\_\_]…フランス革命の際にはジャコバン派の一員として「マラーの死」を描いて理性崇拜の演出を担当。ナポレオン時代には宮廷画家として「戴冠式」や「アルプス越え」を描いた。

マラーの死	戴冠式	アルプス越え
		

(2)[3. \_\_\_\_\_]

- ・ダヴィドの弟子。古典主義絵画の完成者とされる。
- ・表作「4. \_\_\_\_\_」。(右図)  
 ▶ゆがめられたプロポーションの後ろから見られるけだるいポーズの、愛妾を描いている。



2. [5. \_\_\_\_\_]

古典主義に満足できず 19世紀初めからおこった美術様式。情熱的・幻想的で、題材も強烈。

(1)[6. \_\_\_\_\_]…フランス=ロマン主義の代表的画家。強烈な色彩による劇的表現を用いた。

①「7. \_\_\_\_\_」…ギリシア独立戦争を描き、独立運動支援を高め、当時絵画の虐殺とさえ酷評される激しさを表現した。

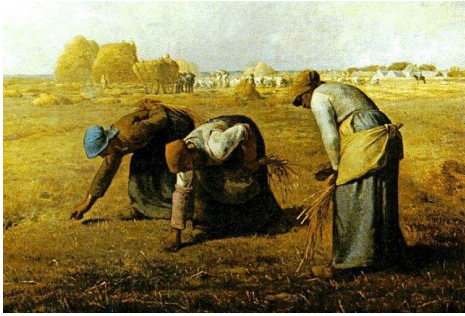

②「8. \_\_\_\_\_」…1831年、七月革命の市街戦を描いた。

キオス島の虐殺	民衆をみちびく自由の女神
	

3. 自然主義絵画と写実主義絵画

9.	10.
古典主義の理想化やロマン主義の誇張を捨てて、ありのままの素朴な自然の姿を描こうとした美術様式。農村や自然の風景を題材にしたものが多い。	現実の自然や人間の生活を客観的に描写しようとする美術様式。19世紀中頃フランスを中心におこり、社会主義運動と接近したものもあった。

- ①自然主義的芸術作品は、「自然の理想化」と相反するものではない。
- ②自然に価値の原理があるとする点においては写実主義（リアリズム）と同意
- ③「対象物の理想化を許容せず、美醜にかかわらず自然を写す」という意味での写実主義とは矛盾

[11. _____] 「落穂拾い」	[12. _____] 「石割り」
	

4. [13. \_\_\_\_\_]

19世紀後半に現れた光と色彩を重視して、対象から受ける直接的な印象を表現しようとした絵画流派。

14.	15.	16.
フランス印象派の創始者。娼婦などを描いて物議を醸しだした。	「光の画家」。『日の出-印象』『睡蓮』、『ラ=ジャポネーズ』などが有名。	豊満な裸婦像などの人物画に独自の境地を拓いた。
『オランピア』		
		

5. [17. \_\_\_\_\_]

19世紀末に印象派から発展した流派。視覚だけにとどまらず、自然の基本的な形と様式の把握にも努めて、自己の感覚の上で構成しようとした。

18.	20.	21.
自然を単純化した独自の画風	タヒチで未開社会を描く	精神錯乱を起こし自殺
19.	タヒチの女	22.
		